

西光寺だより

第五十四号 平成二十七年二月一日発行

二月に入りまだまだ寒さが厳しいですが、少しずつ日が長くなってきたように感じます。紅梅や白梅もほころび始める頃でしょうか。

「馥郁（ふくいく）たる梅の香り」という表現があります。馥郁とは、よいにおいがあたりに広く漂う様を表しているのですが、その意味を知らずとも、なんともやわらかで良い香りが漂ってきそうな言葉です。

日本語には、そのときその場にぴたりとくる「ことば」がたくさんあります。方言もそのひとつですね。「寒い」は、地方により「しばれる」「いてる」「ひやい」などと言われているようです。「しばれる」は、聞いたことのある表現ですが、「寒い」だけでは足りない凍てつくほどの厳しい寒さを感じることが出来ます。

「ことば」の豊かな国というのは、同時に心の豊かな国であるとも思います。きつとわたくしたちの祖先は、ひとつひとつを丁寧言葉にのせてきたのでしょね。だとすれば、ひとつひとつの言葉を大切にしていきたいですね。

今日を表すとすれば、どんな言葉を使いますか？今の自分を知らずとすれば、どんな言葉で伝えますか？

言葉を大切にするということは、実は自分を、周りの人々を大切にすることなのではないかと思えます。

まだ春の訪れが待ち遠しいこの時期、まるで陽だまりのように、わたくしたちはやわらかな言葉で自分も周りも包みこめたら良いですね。



◆三・四月の行事◆

・三月 二十二日（日）

追弔会ならびに仏教婦人会総会

午前十一時三〇分より

西光寺本堂

・三月 二十五日（水）

茨木東組子育て支援

午前十時〜十一時三〇分

西光寺本堂

・四月 五日（日）

春季永代経法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使 宮部 誓雅 師

（摂津市 誓覚寺）

◆先月の報告◆

前進座公演『如月の華』―九條武子ものがたり―

（九條武子夫人 九〇回忌 お待ち受け企画）

（ご案内について）

この度、右記のご案内に対しまして十一名もの方々の参加申込みがあり、本当にありがとうございました。

これは、本願寺第二十一代門主・明如上人の次女として生まれ、与謝野晶子・柳原白蓮とともに大正の三大女流歌人と謳われた九條武子夫人のかなしくも美しいものがたりです。

武子夫人は、仏教婦人会を創設し本部長に就任、同会運営の重責を果たされ、仏教主義に基づく京都女子専門学校（現・京都女子学園、京都女子大学）を設立。また、大正十二年九月一日の関東大震災で自身も被災するが一命を取りとめ、全壊した築地本願寺の再建、震災による負傷者・孤児の救済活動（「あそか病院」などの設立）などさまざまな事業を推進されました。そして、女子教育・女性の地位向上へと、四十二年の短い生涯を捧げられました。

この度のご縁を大切に、ご門徒の皆様方と一緒に観覧したいと思えます。また報告として『西光寺だより』に載せさせていただきますと思いますので、よろしくお願い致します。

♪おしらせ♪

茨木東組

実践運動重点プロジェクト

子育て支援（キッズサンガ）

第三回への御協力をお願い

これは、茨木東組十八カ寺の方々を中心に子育て支援のプログラムを三カ年計画で実施し、第一回は勝光寺・第二回は称名寺、そして第三回の開催を西光寺で行うこととなりました。そこで今期最終の取り組みとなりますので、皆様の御協力をお願いしたいと思います。

花祭りの季節を先取りした楽しいイベントにしたいと考えております。

さて、四月八日のお釈迦様の誕生日に近いということで今回は、『たのしくお寺で遊ぼう！花祭り！』と題しまして、西光寺本堂にて花祭りの甘茶かけや紙芝居、その他みんなで遊べるゲーム等、楽しい時間を過ごしたいと思っておりますのでご案内させていただきます。

- ・日時 三月二十五日（水）午前十時～十一時三十分まで
- ・対象 幼児と小学生（必ず保護者同伴）
- ・持ち物 水筒・タオル

参加希望の方は西光寺まで宜しくお願い致します。
もちろん無料です。なお**締切は三月十五日（日）**です。

合掌

花祭りとは・・・四月八日にお生まれになったお釈迦様の生誕をお祝いする日であります。そして、お釈迦様がお生まれになった時、「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」といわれたように、私たち一人一人のかけがえない生命の尊さを思う日でもあります。そして、お釈迦様のお生まれになったお姿（誕生仏）を、ルンビニの花園（お生まれになった場所）のように花でいっぱいにした花御堂に安置いたします。それで花祭りというのですが、花は人の心をうつします。ひとつひとつは弱く見えても天地の恵みに支えられて年々歳々咲きます。人も花と同じように支えられ、生かされているかけがえない生命を生きているのだと「花祭り」の日に改めて考え、自覚するのであります。

お生まれになった時、天界の龍王が甘露の雨を天空からそそいだということから、甘茶を誕生仏の上方からそそぎます。日本では、江戸時代よりおもに甘茶を「甘い香りの雨」として用いています。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>